

岩田久二雄先生を悼む

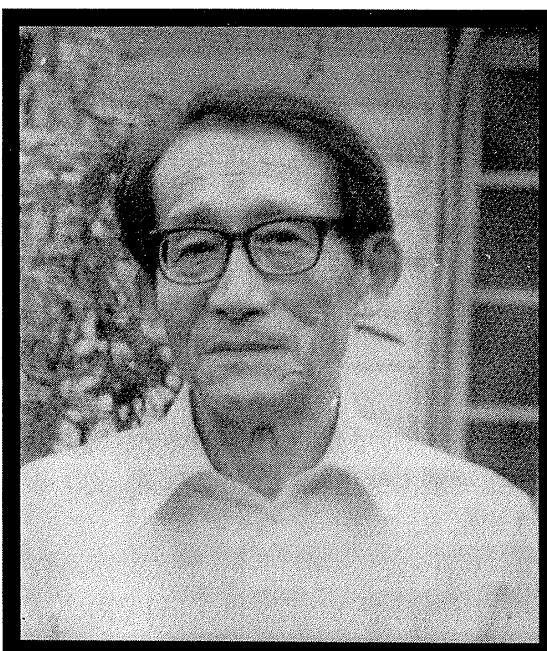
本会名誉会員、神戸大学名誉教授の岩田久二雄先生は、かねて病気療養中のところ、平成6年11月29日、折から滞在中の福岡市内において、急性心不全のため、ご家族にみとられながら、不帰の人となられました。行年88歳。まことに哀惜にたえません。ここに謹んで哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り致します。

先生は明治39年大阪市に生まれ、昭和6年京都帝国大学農学部農林生物学科を卒業されました。同年から農学部副手、昭和17年には財団法人木原生物研究所研究員として研究生活を送る傍ら、大阪府立高津中学や同北野中学で教鞭をとられました。また、太平洋戦争華やかなりし頃は中国の海南島で綿の害虫の防除研究に従事されました。

敗戦後の昭和23年には香川県立農林専門学校教授に任せられ、同25年には兵庫県立農科大学（後の兵庫農科大学）その後は神戸大学農学部教授を歴任され、昭和45年定年により神戸大学を退官されるまでの間、研究と後進の育成に専念されました。退官後は、地元の湊川女子短期大学の教授として子女の教育に力をつくされました。

先生のご活動は大きく分けて、2つの時期に別れます。第一は、ファーブルに魅せられて、蜂を求めて、北摂猪名川の河原を徘徊した旧制大阪高校の頃から、綿花害虫の研究の為に海南島に渡るまでの期間。その間に宮々と調査研究された単独性有効類の比較習性は数多くの報告として出版されました。後に、それらの研究を基にして、膨大な文献資料を駆使しつつ、「蜂の生活」(1940)、「Comparative studies on the habits of solitary wasps」(1942)等の集大成が行われました。

第二は戦後日本に引き上げられて、大学に奉職された時代。この期間には、先生はその努力の多くを寄生蜂の生態の研究と、膜翅目をはじめ色々な昆虫の卵巣と藏卵の比較調査に傾注されました。戦前に一応は単独性の蜂類、特に狩猟蜂の習性についての取りまとめを終わられた先生が、どうして、その後花蜂や社会性の蜂に手を付けられずに、寄生蜂にその注意を向けられたのか、今となっては明確な答えは得られません。多分、海南島での害虫防除の研究の経験や、農学部での研究と言う制約を考えての事かも知れません。後の方の卵巣の調査は、元々、寄生蜂の藏卵・繁殖活動の手がかりを得るために始められたと考えられますが、後に、先生自身やPrice (1974)，それに多くの研究者によって証明されたように、この仕事は蜂や昆虫の生活を理解する上できわめて先駆的な意義の有るものだったと思われます。



会 記

459

神戸大学を定年退官された機会に、それまでの全ての仕事を一冊の書にまとめられ、「本能の進化、蜂の比較習性学的研究」(1971)を表されました。この書は、後に、スミソニアン研究所のKrombein博士のご厚意でインドで英訳、出版されました。日本の昆虫学界が世界に誇る金字塔の一つであろうと考えられます。

先生はその生涯を通して数多くの魅力ある書を出版されました。ことに、太平洋戦争直前や戦後の時期に世に出された物には独特的な香りがあり、例えば「自然観察者の手記」(1944)は、従来例を見ない自然描写と格調高い文体に、多くの若者が魅せられ、自然科学の途を選ばせたと言われています。これも先生の功績の一つと考えられます。

先生の講義や講演も独自のもので、学生や多くの人達に人気がありました。先生は、又、若者や研究者を志しながら不遇な立場にある人に常に優しく配慮をしておられました。病床にあっても訪れる人に心を配り、優しく処遇されました。先生のアドバイスに激励された方々も多かったと思います。

日本のファーブルと呼ばれる事を喜んでおられた先生、お酒を愛され、あまたの武勇伝を残された先生、豪放らい落に見えて、その実、仕事に関しては細心、緻密だった先生、先人の後を追わず、常に、自分の道を切り拓かれた先生、せっかちで、いつも急ぎ足に歩かれた先生。先生は昆虫学に、又、日本の昆虫学界に、実に多くの貢献を残されました。先生、いまは、どうぞ安らかにお眠り下さい。

略 歴

明治 39 年 5 月 25 日	大阪市に生まれる
昭和 6 年 3 月	京都帝国大学農学部農林生物学科卒業
同年 4 月	農学部副手
昭和 14 年 4 月	大阪府立高津中学校教諭
昭和 17 年 10 月	財団法人木原生物研究所員
昭和 21 年 9 月	大阪府立北野中学校教諭
昭和 23 年 5 月	香川県立農林専門学校教授
昭和 25 年 3 月	兵庫県立農科大学教授
昭和 44 年 4 月	神戸大学農学部教授
昭和 45 年 4 月	定年により退官
昭和 45 年 10 月	神戸大学名誉教授
昭和 46 年 4 月	湊川女子短期大学教授
昭和 55 年 3 月	退職
平成 6 年 11 月 29 日	急性心不全にて死亡

なお、ご遺族の岩田和子夫人は、先生と馴染みの深神市区櫛2目8-3-13(電話078-981-6658)でお一人でお暮しです。2人のご子息は各々、福岡大学と九州東海大学で生物学人としての途を歩んでおられます。

(桃井節也、神戸大学農学部)